

日本バプテスト連盟
ホームレス支援特別委員会

ニュースレター No.3

「お詫びとお願い」

ホームレス支援特別委員会
委員長 副田一郎

2003年度のニュースレターの発行が遅くなりましたことをお詫びいたします。

今、路上生活者にとっては、厳しい越冬の時期にあり、私が支援活動をする市川でも、12月から1月にかけて、3人の路上死がありました。誰にも気づかれずに息を引き取り、死後も数日発見されぬままに……。その度に心の痛み、無力感に襲われます。だからこそ、主の助けを求め、祈り、委ねることの尊さを思います。きっと各地でも、同じような出来事が起こっているものと思います。

全国の連盟の教会・伝道所の皆さん、どうぞ、今後とも当委員会並びに各地での支援活動を覚えて、引き続きお祈りください。そして、一度支援の現場をのぞいていただければ幸いです。

【目次】

高崎活動報告	1
兵庫活動報告	2
沖縄から	5
信仰告白	6
全国のホームレス支援教会	7
西日本新聞記事より	8

高崎地区ホームレス支援 活動報告

1. 始まりの経緯

2001年の10月、市内の数人のキリスト者による呼びかけにより、公開学習会が「今、ホームレスと向き合う」というテーマで開かれました。講師は中谷功氏(カトリックフランシスコ会司祭、「山里相談室」主宰)でした。この時、やはりキリスト教会関係者を中心として30名余りの人が集まりました。その場で、問題の学習だけでなく、実際の援助にも乗り出そうという声が上がりました。その後、数回の実態調査を経て、定期的な活動が始まりました。

2. 活動の実際

活動日は月二回、第一と第三の火曜日の夜です。カトリック教会(夏期はバプテスト教会)でおにぎりなどが作られ、カトリック教会を集合場所・拠点として行われます。第一の時は、打ち合わせ・話し合いの後巡回をし、第三は巡回のみです。

市内におられる「ホームレス」は、私たちが知り得た限りで、駅を中心に20~30人です。その方々に配るものは、主におにぎり・味噌汁・スープなど食料と、冬はカイロ・薬などです。たまに下着類など衣類を配ることもあります。このために、米・野菜などの献品があります。

また、他の活動費は有志のカンパによってまかなわれています。支援者の名簿を作って、打ち合わせ会の報告を

「支援だより」として配っています。

3. 活動の理念

初めから、キリスト者を中心としながらも「市民によるボランティア」という位置づけでしたので、特に「理念」を統一化することはしませんでしたし、今もしていません。参加者それぞれがそれぞれの思いによって、加わっていると思います。

筆者加藤個人としては、学習会の「呼びかけ人」となりましたが、「月二回おにぎりを配るだけで、何になるのか」「本当に助けとなるのか」という自問自答を繰り返していました。ただ思っていたのは、このおにぎりを配るということが「きっかけ」となって「ホームレス」の人たちと関わり・交わりを持つことができ、そこから「何ごとか」が始まっていくのではないか、という期待でした。少なくとも、それだけは間違っていなかったと思います。

4. 活動の「成果」

何をもって「成果」とするかは簡単ではありませんが、一応人間的に「成果」と言えそうなことを述べます。

何より、野宿者の人たちから受け入れてもらえたことが喜びです。わずかばかりの支援に過ぎませんが、それでも巡回日には当てにして集まって待っていてくれます。その中で、今までのところ4人の方がアパートを借りて野宿生活から離れられました。また、肺炎のため大変危険な状態にあった方が、病院に保護されました。

しかしまた、路上死1名、また消息がつかめないままの孤独死が1名と

いう厳しい現実にも出会いました。

5. 課題

関わりを深めることが徐々にできるに従い、直面する問題もまた深まっています。今後どういう支援ができるのか、また望ましいのか、少しはボランティア相互で対話をし、共に考えて行く必要があります。また、行政への対応・交渉も十分ではなく、より良いものとして行きたいと思います。さらに、高崎教会においても活動への理解・協力が深まればと願っています。

(高崎教会 加藤英治)

野宿者支援 NGO

「神戸の冬を支える会」の活動報告

1. はじまり

「神戸の冬を支える会」は、阪神大震災が起った1995年、8月の災害救助法の打ち切り(避難所の閉鎖)やそれまでの避難所での震災被災者と野宿者(住む家がない状況は同一)の差別的扱いを憂慮し、その年の冬、カトリック大阪大司教区神戸中山手救援基地・日本基督教団兵庫教区社会部委員会・神戸YWCA・カリタス大阪神戸・大阪釜ヶ崎協友会・京都夜まわりの会・関西学院大学神学部釜ヶ崎自主講座・日本バプテスト連盟震災現地支援委員会を構成団体とし、それに有志の個人が加わり、支援のスタンスとしては「野宿したくない人が野宿しないで済むように、今野宿せざるを得ない人の人権がそこなわれないように」

を合言葉に結成した神戸における野宿者支援のためのNGOです。現在は、震災による緊急支援活動から恒常的支援活動へと意識は移行し、構成団体もカトリック大阪大司教区社会活動神戸センター・日本基督教団兵庫教区社会部委員会・神戸YWCA・シナピス神戸須磨地区・神戸公務員ボランティア・バプテストホームレス支援ネット兵庫(兵庫県下7教会)になり、それに有志の個人が参加しています。

2. 活動内容

夜まわり・昼まわり・病院訪問

一週間の内、神戸市内の全域をカバーしてまわるよう団体間で地区を決め行っています。現在は、水曜日がカトリックで中央区一円、金曜日がバプテストで中央区の一部と兵庫区、同じく水曜日にシナピスが須磨区・垂水区、土曜日にYWCAが灘区・東灘区をまわっています。現在、出会う野宿者数はトータルで約300人です。当然のことながら、団体ごと医療につないだ人で入院になった人の病院訪問を行ったり、複雑な相談を受けた場合は毎週土曜日の相談窓口につなぎます。また、今年になって毎週土曜日、バプテスト(尼崎教会マナの会)が尼崎市での昼まわりをはじめています。

炊き出し・「仲間の集い」

毎週火・木・土、カトリックを中心にお昼の炊き出しを行っています。特に、毎月第4土曜日は「仲間の集い」ということで炊き出しを各団体が順番で担当し、炊き出し後当事者の話し合いや連絡・お知らせの時間を持っています。炊き出しを利用する野宿者は

現在平均して約200人です(拠点移転のため今年は減少)。また、金曜日の昼間は、カトリックが物資・お風呂・洗濯場を提供し、利用者は平均30人といったところです。また、3年前から尼崎でも毎週日曜日の夕方炊き出しを行い、尼崎の野宿者約170人が利用しています。

相談窓口

毎週土曜日の炊き出しに併設するかたちで相談窓口を開いています。震災後しばらくは生活保護による居宅確保の相談が主でしたが、最近はそのだけでなく多重債務・年金受給・家賃滞納・離婚問題・遺産相続・DVなど相談内容はより複雑に多岐にわたってきています。

この相談窓口を通じて、野宿から居宅生活に移行した人は震災後から約1500人に及びます。全国各地の野宿者数が激増する中、神戸市のみ若干減少傾向であるのもこの活動の影響があると見られ、この活動が可能になった背景に神戸市福祉事務所が簡易宿泊所(いわゆるドヤ)で1泊すれば保護申請を受理するようになってきたことがあります。

また、尼崎でもバプテストが相談活動をしています。ここ3年間で約150人の人が野宿生活から居宅生活に移行しています。尼崎の場合はドヤがありませんので、すべて入院(または施設)から居宅保護になったケースです。

越年・越冬活動

毎年、役所の休庁期間を含む年末年始、各団体総力を注いで越年・越冬活

動を行います。神戸市の東遊園地や尼崎市の橋公園などに拠点をつくり、炊き出し・生活相談・医療相談・役所へのあいさつ申し入れ・追悼集会・餅つき・書初めなどを行います。休庁期間の生活保護申請は、役所の休庁期のポストに申請書を投げ込み、仕事始めの日に面接に行きます。毎年約400人がこの活動を利用します。

一斉夜まわり

毎年7月の第4金曜日は各団体統一の一斉夜まわりを行い、神戸市内の野宿者の実数をカウントします。これは、会の活動に反映させるためと、行政サイドのカウントと対比して行政への申し入れや施策提言に活用するためです。NGOとして行政サイドより詳しい現場のデータや様子を把握していることは必要なことです。

簡易宿泊所(ドヤ)訪問・公営住宅訪問

毎年2~3回、野宿状態を脱出し、ドヤや公営住宅それに民間アパートで居宅保護を受け生活している人の訪問活動を行っています。1回の訪問で約400件の訪問をします。やはりアルコール依存・家賃滞納・医療・債務の問題が発生している場合があり、早期に対応する必要があります。

講演会・学習会

毎年1~2回、市民やボランティア、それと行政の福祉事務所職員などに呼びかけ、専門家を招いて学習会や講演会を開催します。目的は神戸市民に野宿者の問題を知ってもらうのと、会の活動に参加しているボランティア

と行政職員に専門的知識を持ってもらうためです。テーマは、生活保護のしくみと運用についてや年金・債務についてなど多岐にわたります。

申し入れ・交渉

毎年2~3回、必要に応じて対市・対県の申し入れや交渉を行っています。昨今は、国の自立支援法の実施計画発表に向けて、兵庫県下で考えうる施策や県下自治体で考えうる施策はなにかNGOレベルで協議し、一地域として早急に申し入れる準備をしています。

自立支援住宅・グループホームなどの中間施設の設置

現在、野宿者が居宅での自立した生活に復帰するまでの中間施設設置の構想をしています。神戸市内に2カ所を予定していますが、それを生活保護を受けるための一時住居に、また自立生活を目指した訓練をするグループホームとして、緊急保護のためのシェルターとして活用して行く予定です。

(浜甲子園教会 森山一弘)

沖縄の野宿を余儀なくされている方々との出会い

岡田有右

阪神淡路大震災後、神戸の町で沖縄県出身のAさんに出会いました(当時78歳)。沖縄に住んでいたAさんは太平洋戦争中日本に徴兵され満州に送られました。敗戦後も沖縄に帰ることができず、60年間故郷沖縄に帰りたいたいという願いを持ち続けていま

した。Aさんは寒さと栄養失調のために入院しました。その後、私は神戸から沖縄にやって来ました。しばらくして『バプテストホムレス支援ネット兵庫』から「Aさんが故郷沖縄に帰りたがっている。実現できないだろうか」と連絡がありました。何とか沖縄でアパートが与えられ、Aさんは2002年8月20日、故郷沖縄に降り立ちました。町の食堂に入ってAさんが60年振りに注文したメニューは「ゴヤチャンプル」でした。

しかし、Aさんは住んでいたアパートから行方不明になってしまいました。沖縄出身とはいえ、60年振りの沖縄です。道に迷ってはいないだろうか、公園や街角で野宿をしてはいないだろうか、搜索願を出すと共に探し回りました。その時からAさんを探すための沖縄での夜回りが始まりました。そして半年後、『支援ネット兵庫』から「Aさんが神戸の元居た場所に戻って来ている」との連絡が入りました。「エッ」。驚きと共に命の無事を喜んだのであります。Aさんは那覇港からフェリボートで鹿児島に渡り、熊本まで歩き、その後は電車に乗り継ぎながら半年かけて神戸にたどりついたのです。入院しているAさんを訪ねました。「なぜあれ程帰りたがっていた沖縄を離れたのですか」。Aさんは「沖縄が変わった。以前の松並木が米軍の基地になってしまっている。大和の言葉になりウチナグチ（沖縄の言葉）が通じない。私が安心して生活できる行政のシステムがない。再び神戸の高架下に帰って行かれました。80歳を越えて、なお居場所を求めてさ迷うAさんの姿があり

ます。誰がAさんをそうさせたのだろうか。大和の罪を感じるのです。Aさんが残して行かれた沖縄の夜回りが細々と継続しています。

那覇市の国際通りやモノレール下で毎週15～16名の野宿する方々と出会っています。一人の男性(71歳)が語ってくれます。沖縄戦を前に宮崎に学童疎開をしたこと。『なじ丸』に乗って『対馬丸』と共に那覇港を出発したこと。でも『対馬丸』は多くの子どもたちを乗せたまま海底に沈められていること。敗戦後沖縄に帰ると家族が誰もいなくなっていたこと。誰が彼をそうさせたのか、心が痛みます。夜回りでは必要とされる方にはおにぎりや味噌汁、教会に献品された服を渡しています。

安心して住める家がある。安心して食べることができる食事がある。安心して人との交わりをもつことが出来る。居場所が与えられ、一人ひとりが大切にされる。平和(シャローム)を祈りつつ那覇の街(教会)で小さな夜回りを続けています。

信仰告白

森 濃(市川八幡教会)

私は元ホームレスの一人でありました。JR本八幡駅に2000年1月元日の夕方にきまして、約2年になります。本八幡にきた理由は、実家が稲荷木にありまして、電話帳で電話番号を調べ電話をしましたが「何だ、何十年も知らん顔をしておいて、今更。自分が困ったときだけ電話してきて、受け付けられないよ」といわれました。当

然です。

2000年3月頃までは失業保険で本八幡駅南口で暮らしていました。その後友人も2,3人できて、仲間に入れてもらいました。失業保険のお金も使い果たしてしまい、友人とコンビニのゴミ袋から残飯を漁り暮らしていました。それから本を駅の構内のごみ箱から集めて売って現金にし、生活をしたらどうか、といわれまして、それは大変助かると思い、すぐはじめました。約1年と3ヵ月です。

恥をお話いたします。私はギャンブルで人生を棒に振ってしまい、家族、親戚、友人などを裏切ってしまったのです。サラ金にも手を出し、11年前に離婚いたしました。自分を楽しませることばかりを考えていた罪がホームレスになった理由だと思います。善人な人たちを裏切り、多大な迷惑をかけてしまい、死んでお詫びをと思いましたが死にきれませんでした。死んで詫びるなど卑怯なことでこんな大馬鹿なことをやってきて犬、猿にも劣るまったく情けない話です。こんな情けない駄目人間でも命は欲しいです。もう二度とホームレスの生活はしたくありません。副田牧師、ガンバの会のみなさんとの出会いは2000年4月の上旬頃だったと思います。金曜日夜10時ごろ、JR本八幡駅南口におにぎり、衣類、薬などをいただいていたのが、何よりも大変うれしかったです。世の中には大変苦労してこんな私でも助けてくれる人がいるんだと生まれてはじめて知ったような気がしました。

それから、2001年5月頃だと思えますけれど、副田牧師から「森さん

自立支援住宅へ7月頃入居できそうだ」といわれ、今福祉の担当者に頼んでいるところだと聞きまして大変嬉しかったです。もう二度とアパートには住めないと思っていましたから。それから月日がたちまして、7月5日に自立支援住宅に約1ヵ月間住みまして、8月1日に本行徳のアパート、リバーパレスに移りました。こうしたガンバの人たちとの出会いから徐々に神の愛を感じはじめました。毎日毎日が時間を持て余して何か自分は何かがないのかと思ひ、ふと、「そうだ、イエス・キリストを信じ、聖書を学び、神を信じ、自分の罪を知って悔い改め、イエス・キリストを受け入れ、新しく生まれ変わろう」と決心した次第です。イエス・キリストの十字架において、私の罪は赦され、救われました。神の愛に感謝し、キリストに従って生きるために、主日礼拝を中心とする教会生活を大切に守り、主、イエス・キリストに献金を献げ、奉仕を献げ、残り少ない人生を有意義に過ごして毎日笑顔で暮らしていきたいです。

また、成田兄弟、大石兄弟の変貌にはびっくりしました。これも神を信じ、聖書を学び、キリストに従って歩んだ結果だと私は信じております。私も成田、大石兄弟に続け、とばかり大きな声で叫んで信仰告白を終わらせていただきます。最後に本日たくさんの兄弟姉妹の仲間に入れましたことを感謝いたします。

2001年12月23日

(注)森さんは、現在市川ガンバの会の支援者として奉仕して下さっています。また、元ホームレスで現在はアパートに入居し、社会復帰の道を歩んでいる仲間たちで作る居

宅者交流会「アヒルの会」の世話役も務めてくださっています。

ホームレス支援教会一覧

当委員会が把握しているホームレス支援を定期的に行っている地区と教会、支援者が所属している教会は以下の通りです。活動の問い合わせ教会のみ電話番号を記しました。この他に「ここでもやっているよ」という情報がありましたら、連盟事務所気付、ホームレス委員会あてご一報くだされば幸いです。尚、他にも献金や物資献品などを通して支援活動をささえてくださっている教会・伝道所が多くあります。皆様の関心と祈りを感謝いたします。

【高崎地区】

高崎バプテスト教会
027-353-6228

【市川地区】

日本バプテスト連盟市川八幡教会
047-332-5197
日本バプテスト連盟市川大野教会
栗ヶ沢バプテスト教会
日本バプテスト浦和キリスト教会

【藤沢地区】

藤沢バプテスト教会
0466-23-1088

【平塚地区】

平塚バプテスト教会
0463-33-2320

【岐阜地区】

岐阜バプテスト教会
058-265-0881
愛知新生キリスト教会

【京都地区】

日本バプテスト京都教会
075-231-1351

【平野地区】

平野バプテスト教会
06-6708-5852
シオンの丘教会

【兵庫地区】

日本バプテスト連盟浜甲子園教会
0798-41-5300
宝塚バプテスト教会
尼崎バプテスト教会
神戸国際バプテスト教会
神戸バプテスト教会
神戸西バプテスト教会
神戸伊川キリスト教会

【北九州地区】

東八幡キリスト教会
093-651-6669
南小倉バプテスト教会
日本バプテストシオン山教会
若松バプテスト教会
日本バプテスト枝光キリスト教会
直方バプテストキリスト教会

【福岡地区】

日本バプテスト福岡基督教会
092-741-6256
バプテスト東福岡教会
平尾バプテスト教会
長住バプテスト教会
宇美伝道所
日本バプテスト春日原キリスト教会

【久留米地区】

日本バプテスト連盟久留米教会
0942-35-1960
日本バプテスト連盟久留米荒木教会

【沖縄地区】

沖縄浦添キリスト伝道所
098-942-4775

2004年2月16日
西日本新聞記事より

ホームレス支援で連携 民間4団体 県連合会を結成

路上生活者の支援活動に取り組む県内の民間4団体は15日「県ホームレス支援団体連合会」の発足式を福岡市中央区大名の教会で開いた。参加した関係者ら約160人が「ホームレスが一人でも多く、一刻も早く自立できる社会づくり」を目指した約束を誓った。

連合会は北九州ホームレス支援機構(北九州市)、福岡おにぎりの会(福岡市)、福岡すまいの会(同)、久留米越冬活動の会(久留米市)で構成。代表には北九州支援機構の奥田知志理事長(40)が就任した。

奥田代表は基調講演で長引く景気低迷が影響し、県内のホームレスは約1200人(2003年1月)に上り、2年前の1.8倍に増えたことなどを説明。「行政とも連携を強め、活動を通じてホームレスを生み出す社会を市民が見つめ直す機会にしたい」と語った。

具体的には各団体の情報交換、ホームレスのアパート入居時の保証人を募る「自立支援保証人バンク」の設立運営、差別・偏見をなくす啓発活動などに取り組む。

会合には3年前まで約10年間福岡市で路上生活を続けた同市博多区の男性(48)も参加。連合会発足を「昔の仲間たちを助けるいい機会。自分も手伝いたい」と喜ぶ一方で、「仕事や家族を失えば誰もがホームレスになりかねない社会のあり方を考え直してほしい」と話していた。

ホームレス対策では、2002年施行

の「ホームレス支援法」に沿って国が基本方針をまとめており、これに沿った基本計画を県が策定中だ。

ホームレス支援特別委員会 シンポジウム報告書 (2001年・2002年)

好評頒布中

1冊500円(送料別)

ご希望の方は、連盟事務所気付ホームレス支援特別委員会までお申し込みください。

(委員会に届いた読者の感想より)
「この報告書を読ませていただき、今までの自分の考え方が根底から覆される気がしました。モノをいうためには出会わないといけないことを教えられました。」